

4月1日 9:00 新規採用職員紹介 市長訓示

令和6年度新規採用職員辞令交付式にあたりご挨拶を申し上げます。

始めに、松本正治議長ならびに池田稔巳副議長、そして議員各位におかれましては、何かとご多用の中をご出席いただき、新規採用職員に対してご激励をいただきますこと、誠にありがたく改めて厚くお礼を申し上げます。

それでは本日ここに、大きな希望と決意を胸に整列された 22 名の皆さんに申し上げます。

いま皆さんの胸の中には、「平戸市職員として地域のために尽くすぞ」という溢れんばかりの固い信念が漲っており、力強い頼もしさを感じます。

皆さんは本日から、地方公務員としての自覚と全体の奉仕者としての責任をしっかりと認識して、「市民の利益のために何をなすべきか」を肝に銘じながら、若者らしい迫りに満ちた前進を続け、一日も早く郷土の発展のための逞しい原動力となって頂きたいと思います。

すでにご承知の通り、わが国の人口減少はコロナ禍を通して益々加速され、現状においては都市や地方の垣根なく深刻な人手不足に悩まされています。こうした労働力資源を補う取り組みとしてAIなどデジタルトランスフォーメーションの幅広い活用や、外国人移入などの様々な提案がなされていますが、業務の中核の部分は、その現場で受け継がれてきた貴重な経験や豊富な情報源を司るヒューマンパワーで対応しなければならないのではないかと思います。

そうした意味において、本日から新たに仲間入りした新規採用職員は、私た

ち行政組織のみならず平戸市としての貴重な人材資源、財産として選ばれており、心から歓迎したいと思います。

さて去る3月13日に国内では民間企業による初めてのロケット『カイロス1号機』の打ち上げが失敗に終わるという報道がありました。宇宙開発を見据えたロケット衛星の需要は世界的に拡大し競争が激化する中、日本の技術を集積した民間会社スペースワンのチャレンジに大きな期待が寄せられていましたが、大変残念な結果となりました。ただ私がこの報道に接した時、感動したのは同社の豊田正和社長のコメントでした。それは、失敗のお詫びを述べながらも、「我々は失敗という言葉を使わない。新しいデータや経験があり、それは新しい挑戦の糧になる」という、次に向けためげないメッセージです。このことは、失敗と位置づけ後ろ向きになることをやめ、さらなる取組みを継続することで「ピンチがチャンスとなる」という決意の表れだったからです。

人間は失敗をする生き物です。だからこそ相互に意思疎通を図り連携して、業務に向き合いながらチームワークを確固たるものにして前に進まなければなりません。

私たちの今後の行政業務もデジタル・トランスフォーメーションの流れを汲んで、劇的な変革を遂げなければならない時代に差し迫っています。私はこの平戸市DX推進本部の本部長として述べたことの一つに、今後のDX戦略について、新規採用職員と業務上失敗をした経験のある職員の声を拾い上げようではないかと呼びかけました。

その理由は、与えられた業務をこれまでの仕様でそつなく完璧にこなせる能力を持っている職員は、ある意味DXという改革の必要性に気づきにくいのかもしれないという観点です。

つまり「なぜこのような煩雑な仕事に手間をかけ時間を費やしているのか」という疑問に気づきやすいのは、新たに業務にあたる新規採用職員だからこそその新鮮な目線かもしれないということです。さらに仕事上、失敗をした経験のある職員は、同じ失敗を繰り返さないための工夫や、「落とし穴に気づくセンサー」があるかもしれないと思ったからです。

失敗したことについて反省は必要ですが、後悔することではありません。いつかそのネタを次のステップに活かすエネルギーに転換して欲しいと思いますし、そうしたタフな仕事人になっていただきたいと私は期待しています。

また、令和6年は、能登半島沖地震によって悲しい幕開けとなりましたが、年度末から本市職員も含め、多くの支援者が復旧復興を願い、被災地も徐々に元気を取り戻しています。

これに加え、我が国の景気もバブル期に迫るほど株価が上昇するなどの経済指標が示されており、成長の躍動感がジワジワと寄せてくる予感がしています。

本年は平戸市にとっては、東アジアの英雄である鄭成功の生誕400周年という節目を迎え、インバウンド戦略をはじめとして多くの観光客など交流人口拡大への絶好の機会が到来しています。

まさに新年度のスタートラインに立った私たちは、ここに新しく加わった職

員の皆さんの心意気と同じくして、フレッシュな躍動感を日々の実務に反映する決意を新たにしたいと思います。

そして新たに職員となられた皆さんは、これからの毎日を経験豊かな先輩の方々の厳しい指導を仰ぎながら、心を一つにして何事にも臆することなく全力を尽くして努力されることを強く要望します。

以上、新年度における職員の皆さんのさらなる活躍を期待して、年度当初の挨拶といたします。

令和6年4月1日

平戸市長 黒田成彦